

第2回 有明海沿岸道路 筑後川・早津江川橋梁設計検討委員会 会議録概要版

日 時：平成23年12月1日 13:00～16:00

場 所：東福第2ビル1階 第2会議室

学識者：日野委員長、荒牧委員、島谷委員、柴委員、安福委員（欠席）、山口委員、小路委員（代理）、野口委員（代理）

事務局：福岡国道事務所、佐賀国道事務所

決定事項

- ① 両分科会における審議を受け、以下に示す5つの組合せ橋種案について、今後検討を進めていくことを確認した。

	筑後川橋梁	早津江川橋梁
組合せ案①	鋼床版箱桁橋	鋼床版箱桁橋
組合せ案③	鋼アーチ橋	鋼床版箱桁橋
組合せ案④		鋼アーチ橋
組合せ案⑤	鋼斜張橋	鋼床版箱桁橋
組合せ案⑥		鋼斜張橋

議事要旨（指摘事項②～③）

- ① 橋種選定は、景観、地盤・構造の観点から評価項目を整理し、総合的に評価を行う。
- ② 橋種選定に向けて、事務局が提案した審議事項に加え、以下事項が橋種選定に影響を与えるか検証すること。
- （鋼アーチ橋） ・アーチリブの変断面案
・単弦構造および複弦構造
- （鋼斜張橋） ・主塔の変断面案
・1面吊り構造および2面吊り構造
- ③ 土質試験は、試験目的や試験方法の選定理由を明確にすること。

両分科会審議結果の報告**【第1回景観分科会結果の補足】**

委員） シンボルとは歴史遺産と自然に囲まれた周辺風景そのものであり、特に風景の広がりを重要視している。この観点から、筑後川橋梁の鋼斜張橋（2主塔）は主張しすぎであると判断し、検討対象から除外している。

【第1回地盤・構造分科会結果の補足】

委員） 景観分科会に対して、以下の確認事項があった。

- ・ 橋種選定において橋梁の色彩は影響しないか。
- ・ 早津江川橋梁は、下流の早津江橋との調和を考えなくて良いか。

地盤については、矢部川より地盤の状態が悪いこと、調査結果のばらつきが大きい

ことから、今後調査を行う必要があると考えている。

委員) 色彩については、後の審議事項で議論したい。

委員) 早津江川橋梁は、三重津海軍所跡との関係を最重要項目として位置付け、早津江橋との調和は考えなくてもよい。

組合せ橋種案の確認

委員) 橋種の組合せは、筑後川橋梁を主として考えているが、逆は考えないのか。

事務局) 支間長が長い筑後川橋梁を主とした橋種の組合せを考えている。

委員) 資料で報告されている 5 つの組合せ橋種案について、今後検討することで良いか。

全委員) 良い。

審議事項

【橋種選定方法（今後の橋種絞り込み）について】

事務局) 事務局として以下 3 案を考えている。

方法例 1 景観、地盤・構造において、最も評価された案と次点の案を抽出し、その結果に基づき、景観、地盤・構造ともに優れる橋種を選定する方法

方法例 2 橋種選定において重要評価項目を抽出し、討議により最適橋種を選定する方法

方法例 3 景観の観点から劣る組合せ案を除外し、地盤・構造の観点での評価により最適橋種を選定する方法

委員) 提示案は、何案に絞り込むための方法か。

事務局) 1 案に絞り込みたいと考えている。

委員) 景観では、橋梁形式だけでなくデザインが重要である。デザインについてはどう考えているのか。

事務局) 審議の中で、選定橋種に対する詳細設計への申し送りを頂き、今後詳細設計業務を進めつつ、段階的に確認して頂きたい。

委員) 筑後川橋梁において導流堤上の橋脚柱幅は重要であるが、地盤調査が十分でない中で橋種を選定して問題ないか。

事務局) 現在、導流堤上の地質調査・試験を実施しており、これを反映した設計を行う予定である。

委員) 1 案に絞り込むのであれば、方法例 3 は不適と考える。

委員) 各案とも景観的に問題ないのであれば、経済性で決めても良いのではないか。

委員) 経済性だけでなく、構造的、施工性、維持管理も考慮しなければならない。また、方法例 3 は、景観評価の程度が表現できない。方法例 3 は除外して良いか。

全委員) 良い。

委員) 方法例 1 は、評価項目の設定が重要である。各案の評価に差異が見られない項目は除外すべきである。

委員) 方法例 1 は、景観、地盤・構造において各々順位付けする方法であり、問題があるとする。総合的に評価すべきである。

委員) 方法例 2 は、委員の評価をまとめるとのことだが、事務局案を提示した方が良い。

- 委員) 方法例 2 は、重要評価項目の選定が難しいため、方法例 1 が妥当と考えられる。
- 委員) 初回委員会では、経済性に維持管理費を含めないということであったが、本資料では経済性に含めることとなっている。経済性の評価範囲を整理する必要がある。
- 事務局) 概略設計により反映できる費用は考慮したい。
- 委員) 評価項目は考えられる項目を全て挙げ、重要と思われるものに絞り込んだ上で、相対評価するのが良い。
- 委員) これまでの議論を踏まえ、以下の通り整理するが、何れが良いか。
方法例 1 検討すべき評価項目を整理し、総合的に評価する方法
方法例 2 重要な評価項目を抽出し、総合的に評価する方法
- 委員) 何れでも構わない。
- 委員) 評価項目の見直しは必要だか、方法例 1 が良い。
- 委員) 何れでも構わない。
- 委員) 検討すべき項目は全て検討した方が説明しやすいため、方法例 1 が良い。但し、総合的に判断する段階で、各評価項目の重みを考慮する必要がある。
- 委員) 各委員の意見を踏まえ、①橋種選定は、景観、地盤・構造の観点から評価項目を整理し、総合的に評価を行う。(方法例 1)

【橋種の選定に向けての景観検討】

- 委員) ②鋼斜張橋の主塔、鋼アーチ橋のアーチリブの断面形状は、橋種選定に影響するか否か判断が難しいため、変断面とした CG を提示して欲しい。
- 委員) 鋼アーチ橋には色々な形式があるが、一番軽く見える形式が良い。
- 事務局) 現段階では中路式の単弦ローゼで考えている。より良い形式を示唆頂ければ、検討は可能である。
- 委員) ②単弦構造および複弦構造は、検討項目として挙げるべきである。
- 委員) 橋梁の色彩について、昇開橋や新田大橋との調和は問題とされないか。
- 委員) 議論はしていないが、色彩を合わせることは考えていない。
- 委員) 早津江川橋梁の陸上部に、橋上構造物がある認識はなかった。橋脚位置は移動できないか。
- 事務局) 世界遺産登録関係者との協議中であり、右岸側橋脚は移動できる可能性はある。
- 委員) その結果を踏まえ、検討する必要がある。
- 委員) 導流堤上の橋脚基礎はどのように施工するのか。
- 事務局) 導流堤を一時的に撤去する必要があるが、現況復旧できるよう配慮したい。

【橋種の選定に向けての地盤・構造検討】

- 事務局) 安福委員から、③土質試験は試験目的や試験方法の選定理由を明確にする旨の助言を事前に頂いている。